第 12 回　日本臨床代謝栄養学会　九州支部学術集会　を開催して

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
地域医療学分野　大脇哲洋

2021 年 9 月 25 日に、第 12 回日本臨床栄養代謝学会（JSPEN）九州支部学術集会を、私が会長を務めさせてさせていただき、完全オンライン形式にて開催しました。

JSPEN は、1986 年に、第 1 回静脈・経腸栄養研究会として、それまでのいくつかの栄養関連の研究会を統合して発足し、開催されました。その後、1998 年に学会となり、高知医科大学の小越章平が初代理事長として就任され、1999 年の第 14 回から学会として開催されています。2020 年には名称を変更し、日本臨床代謝栄養学会として、JSPEN の略称はそのままに、再出発しています。病院の NST（栄養サポートチーム）加算（現在は入院費に含まれ、行わなければ減算）に必要な、栄養管理の教育の中心学会です。管理栄養士が 6400 名、医師が 4800 名、薬剤師 4300 名、看護師 4200 名、臨床検査技師 700 名、歯科医師 500 名、その他を合わせて 23000 名の会員を抱える学会であり、正に多職種連携を象徴する学会の一つです。

九州支部会は、2009 年に、第 1 回が開催され、その後毎回博多駅周辺で開催され、第 11 回まで、400－500 名あまりの参加者が集ってきました。第 12 回の本支部学術集会は、昨年 11 月に開催予定でしたが、COVID-19 感染拡大により延期し、今回完全オンライン方式にて開催できることになりました。参加者が集まらず、赤字開催と覚悟しておりましたが、皆様・スポサー企業のおかげで、わずかながら、本部の援助もあり、黒字化できました。

オンライン開催ということで、画面の前で集中できるように、特別講演、教育講演、ランチョンセミナーの内容を、興味深く、すぐにでも役立つ内容とし、特別講演では「焼酎の不思議を科学する」鹿児島大学農学部焼酎学講座前教授、鮫島吉廣先生から、醸造学、地理的環

境等の科学的な視点からの焼酎に関する話題を、ランチョンセミナーとして、クラシエ薬品株式会社の協賛で、鹿児島大学漢方薬理学講座の乾特任教授より「薩摩黒膳から人参養栄湯研究まで」として、薩摩黒膳の開発と、人参養栄湯の研究内容についてお話しいただきました。

一般演題の様子

教育講演が重要度の高い学会ですので、教育講演 1 では、「臨床栄養の重要性について～周術期管理を中心にして～」として、重症患者や、COVID-19 感染患者の栄養管理について、JCHO 宮崎江南病院院長の白尾一定先生。教育講演 2 では、「腸管不全症の治療と課題」として、短腸症候群患者の管理を中心に、脂肪乳剤、カテーテル感染予防、新規治療薬に関する話題を、鹿児島大学病院総合臨床研修センター特例教授の加治建先生。教育講演 3 では、「新しい生活様式と新しい食事療法～昭和・平成から令和へ」として、糖尿病患者、高齢者の食事、糖尿病診療ガイドラインの変更点などを中心に血糖管理の重要性を、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 糖尿病・内分泌内科学の出口尚寿先生。以上の非常に臨床に役立つ内容の 3 つの講演を頂きました。学会終了翌日から約 20 日間、オンデマンド配信を提供し、学会参加者は、更に深く確認し、学べることにしました。

学会のオンライン開催は、会費の徴収、スポンサーの獲得、寄付集め、録画、進行など、通常とは異なることが多く、不安な点も多かったですが、会員の皆様のご協力により、当日朝には 330 名を越える参加者を数えるに至りました。各座長の先生方、田中芳明先生、加治建先生、石橋生哉先生、山内健先生、野上哲史先生に、ご協力の感謝を申し上げます。JSPEN 本部の関係者にも、準備段階よりご指導頂きました。JSPEN 九州支部長の野上哲史先生には、構成の段階からアドバイスを頂き、経済的な問題まで相談に乗って頂きました。この紙面を借りまして、感謝申し上げます。

臨床栄養学は、極めて身近な、また重要な、経済的効果も高い治療法を教育、研究、診療領域で提供し、医療人のみならず、患者、家族にも有益な、全人的医療の基本となる分野です。是非興味を持って頂けば幸いです。

2021 年 9 月 27 日　著述